

1. 公益財団法人 福武財団について

公益財団法人 福武財団は、2004年に、地中美術館開館を機に設立された「直島福武美術館財団」を前身としています。2012年10月、基本理念を同じくしながら、それまで独自に活動が続けてきた「福武学術文化振興財団」と「文化・芸術による福武地域振興財団」を吸収合併し、新たに「公益財団法人 福武財団」を設立しました。

福武財団は、ベネッセホールディングスとともにいる、ベネッセアートサイト直島のアート活動を主とした美術館事業、地域振興を目的としたアート活動や瀬戸内海地域における研究活動などへの助成事業、国際的なシンポジウムの開催や瀬戸内国際芸術祭などの自主・共催事業などを通じて、より戦略的にいきいきとした地域社会づくりに貢献することを目指しています。そして、ここでの実践を日本全国、さらには世界に発信し続け、変革への志を持つ人々と共有し、個性と魅力にあふれた地域作りに貢献していきたいと考えています。

2. 助成事業の改定と「地域振興助成」について

助成事業の改定について

福武財団では、それまで「福武学術文化振興財団」が行ってきた「瀬戸内海文化研究・活動支援助成」と「文化・芸術による福武地域振興財団」が行ってきた「文化と芸術による地域振興の助成」を引き継ぎ、継続して実施してきました。

しかし、それぞれの助成プログラムが10年以上経過し、アートの趨勢や地域の実情に合わせていく必要が出てきました。また、財団そのものが瀬戸内国際芸術祭への開催協力を行うなかで、より地域との関わりを深めてきたことから、助成事業の改定を行うことにしました。改定に当たり、2017年度の公募（活動としては2018年度実施予定だった分）を1年休止し、プログラムの改定に取り組んで参りました。

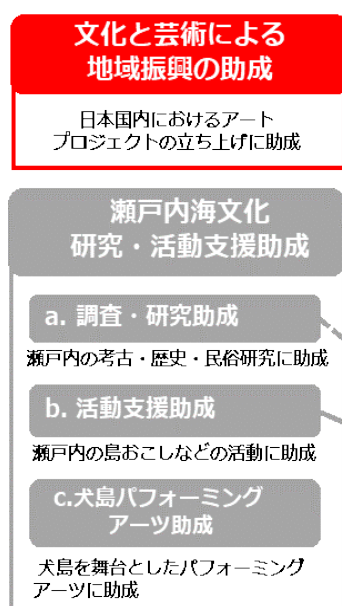
新しい助成プログラム、「地域振興助成」について

助成事業改定に当たり、統合以前の2財団から引き継いだ事業を地域振興という、共通の目的の下に統合・再編し、「地域振興助成」としました。「地域振興助成」は「アートによる地域振興助成」と「瀬戸内海地域振興助成」の2つの助成プログラムで構成されています。助成対象となる活動は、地域住民と地域に関わる人々の創造的で文化的な表現活動を通じた、まちづくり、地域産業おこし、関係人口の増加や移住・定住の支援です。その結果として、活力あふれる個性豊かな地域社会の実現と発展に寄与することを目指します。

改定のポイント

- ① 従来のプログラムの「瀬戸内海文化研究・活動支援助成<調査・研究助成>」は、成果がより地域に還元されることを期待して「瀬戸内海地域振興助成」に統合することにしました。今後は、調査・研究が地域での活動に発展する見込みのあるもの、地域での活動を深めるプロセスで必要となったものなど、地域での活動に結びつくものを採択します。
- ② 「瀬戸内海文化研究・活動支援助成<活動支援助成>」は「瀬戸内海地域振興助成」に引き継いでいきます。テーマは様々になると予想されますが、活動を通して瀬戸内の魅力がより重層的なものになり、関わる人々が瀬戸内との関係を深めることが期待される活動を支援します。
- ③ 「瀬戸内海文化研究・活動支援助成<犬島パフォーミングアーツ助成>」は、活動を実施する段階で助成スキームに合わない面も出てきたため、今後は助成事業の枠組みからはずすことにしました。
- ④ 「文化と芸術による地域振興の助成」は、従来の助成の流れを汲んだ「アートによる地域振興助成<事業助成>」に引き継ぎ、加えて、アートプロジェクトを担う人材の成長を支援する<研修助成>を新設しました。<研修助成>は、当財団の助成を受けた実績のあるアートプロジェクトや海外から日本のアートプロジェクトを学びに来る人を対象とするため、非公募としています。

従来の助成プログラム



改定後の助成プログラム

